

## 平成25年度 千葉市未来の科学者育成プログラム

### 総合コース「生態園の「夏」を発見／博物館バックヤードツアー」

「科学コミュニケーション」。自分で見つけたこと・気づいたことを他の人に伝える大切な手法です。千葉県立中央博物館の生態園で発見した「夏」を、他の人に伝えるための表現を考え、発表しました。

日時：7月13日（土） 10:00～14:40

会場：千葉県立中央博物館

講師：千葉県立中央博物館 生態学・環境研究科 主任上席研究員 林 浩二 先生

千葉県立中央博物館の生態園は、生きものの自然の中での暮らしぶり（生態）を展示する野外博物館です。今回は、生態園で見つけたことを、「写真+短文」「写真」「俳句・短歌」「はがき」「コラージュ（素材を貼り付け組み合わせる作品）」「フロッタージュ（凹凸物の上に紙を置き、鉛筆で擦って描いた作品）」のいずれかの作品で表現し、発表するといった実習を行いました。



受講生は、自然を感じながら、花・草木・葉っぱ・昆虫などを見つけ、デジタルカメラやスマートフォンを上手に活用して写真を撮ったり、画用紙にスケッチをしたりして、自分で発見した「夏」を描写していきました。

ときおり、野鳥観察舎で望遠鏡をのぞき、野鳥を観察したり、ガイドに野鳥の生態を聞いたりする場面もありました。

生態園の植物や動物を注意深く観察して、不思議を発見する姿は、まさしく「森の調査隊」そのものでした。

その後、受講生は、オリジナルの作品を一生懸命に仕上げていきました。

昼食・休憩をはさんで、博物館内の常設展示や、夏の展示「写真展 海の宝石 ウミウシの世界」を自由に見学した後、ワクワク・ドキドキのバックヤードツアーの始まりです。

博物館の研究職員が、各自の研究に取り組む研究室を通過し、広い荷捌きスペースに到着。収蔵庫の様子などを聞きました。中でも、大きな資料を階上に運搬する迫力満点の巨大なエレベーターを目の当たりにし、そのすごさを体感しました。

さらに、図書室にある専門図書の配架の様子を見て、文献の必要性も学びました。



そして、いよいよ仕上がった作品の発表に入りました。写真で撮ったアジサイを時事ネタと組み合わせたり、何枚もの落葉を組み合わせたりしてコラージュを作成したり、落葉のコラージュとフロッタージュを組み合わせたりなど、自分の作品を一生懸命にアピールしました。

受講生も、他の人の作品発表を聞くことができ、みんなが何を発見し、どの方法で作品を仕上げ、どのように発表をしていたのかを知り、学び、体得することができました。

自分が発見・研究したことを人にどう伝えるのか。科学の道を志す上で、「科学コミュニケーション」は、これからの大切なキーワードになります。千葉県立中央博物館の生態園で「科学コミュニケーション」の手法を経験したことは、受講生にとって、今後の大きな財産となることでしょう。

今回講師をしていただきました千葉県立中央博物館の林先生、本当にありがとうございました。